

1806

:9



集千家註分類杜工部詩卷之八

皇族 世胄附

古詩二首

律詩九首

哀王孫

王孫而進食豈望報乎王孫父曰安祿山敬馬潼關玄倉幸西幸諸嗣王及公主之在外者皆不及從其後多為祿山所屠鮮有脫者此詩記而哀之鶴曰詩云切聞太子已傳位當在至德元載七月作詳見註

長安城頭頭白烏

神堯初得天下夜有鵲數百皆集延秋西門呼鳴至夜分方散希曰通鑑云上御勤政樓下制云欲親征皆莫之信移仗北內命陳玄禮整比六軍上獨與昔妃姊妹皇子妃王皇孫及親近宦官宮人出延秋門妃主皇孫之在外者皆委之而去是日百官漸有入朝者至宮門猶聞漏聲一衛市以嚴然門既啟則宮人亂出中

夜飛延秋門上呼

大尺序 延秋門也 避胡 不祥也 天寶十五載祿山陷白鳥之號 皇幸 則德乘與既出 矣公卿寧不逃避邪 金鞭斷 九馬

皇幸 則德乘與既出 矣公卿寧不逃避邪 金鞭斷 九馬

骨... 待同馳... 腰下寶玦青珊瑚... 傳古... 侯傲太子... 左

金... 可憐... 梁泣... 問之... 不肯道... 姓名... 嬾道... 中逢異人

名... 居在... 不辱... 乃長... 下... 語... 林有... 遺... 怪... 而... 問... 姓... 但道... 困苦... 乞

為... 奴... 齊... 安... 王子... 真... 奴... 賸... 不... 從... 已... 經... 百... 日... 富... 荆棘... 身上

無... 有... 元... 肌... 膚... 高... 帝... 子... 功... 蓋... 高... 隆... 一... 作... 準... 龍... 種... 自... 與... 常... 人

殊... 日... 漢... 高... 祖... 為... 人... 隆... 進... 石... 龍... 頌... 應... 劭... 註... 日... 隆... 高... 也... 李... 楚... 日... 準... 鼻... 地

太... 孫... 何... 謂... 生... 不... 得... 其... 地... 定... 興... 奏... 豺... 狼... 在... 邑... 龍... 在... 野... 王... 孫... 善... 保

千... 金... 軀... 陸... 士... 衡... 詩... 願... 保... 金... 石... 軀... 武... 紀... 識... 日... 四... 炎... 雲... 集... 龍... 闕... 野... 趨... 日... 傲

安... 史... 據... 兩... 京... 而... 玄... 宗... 肅... 宗... 俱... 在... 外... 也... 其... 時... 王... 孫... 在... 長... 安... 若... 皆... 未... 遇... 害

詩... 故... 不... 及... 之... 蓋... 史... 云... 天... 寶... 十... 五... 載... 八... 月... 癸... 巳... 肅... 宗... 即... 位... 而... 通... 鑑... 以... 謂

七... 月... 甲... 子... 即... 位... 丁... 卯... 安... 祿... 山... 使... 孫... 李... 殺... 霍... 國... 長... 公... 主... 不... 敢... 長... 語... 臨

及... 王... 妃... 謝... 馬... 等... 已... 巳... 又... 殺... 皇... 孫... 及... 郡... 縣... 主... 二... 十... 餘... 人... 不... 敢... 長... 語... 臨

交... 臂... 且... 為... 王... 孫... 止... 斯... 須... 陸... 日... 周... 禮... 疏... 云... 舞... 交... 臂... 備... 崔... 豹... 古... 今... 注

衡... 謂... 路... 相... 交... 錯... 要... 衝... 之... 所... 甫... 與... 之... 問... 答... 不... 昨... 夜... 東... 血

腥... 東... 來... 橐... 駝... 蒲... 舊... 都... 陸... 日... 師... 古... 日... 橐... 駝... 言... 能... 負... 馱... 兩... 京

御... 史... 謂... 賊... 自... 東... 都... 也... 舊... 都... 謂... 長... 安... 也... 朔... 方... 健... 兒... 好... 身... 手... 日... 稀

詩... 云... 好... 人... 好... 女... 手... 之... 人... 昔... 何... 勇... 銳... 今... 何... 愚... 陸... 日... 世... 說... 桓... 車... 騎... 過

好... 人... 好... 女... 手... 之... 人... 昔... 何... 勇... 銳... 今... 何... 愚... 陸... 日... 世... 說... 桓... 車... 騎... 過

建... 兒... 鼓... 行... 劫... 鈔... 師... 日... 哥... 舒... 翰... 領... 竊... 聞... 太... 子... 已... 傳... 位... 陸... 日... 明... 皇

朔... 方... 兵... 守... 潼... 關... 為... 賊... 所... 敗... 故... 云... 竊... 聞... 太... 子... 已... 傳... 位... 陸... 日... 明... 皇

宗... 聖... 德... 北... 服... 南... 單... 于... 陸... 日... 霍... 光... 日... 聖... 德... 北... 服... 單... 于... 南... 花... 門

勢... 面... 請... 雪... 恥... 勢... 隣... 題... 切... 陸... 日... 時... 回... 紇... 助... 順... 師... 日... 南... 單... 于... 即... 回... 紇

自... 號... 勢... 面... 謂... 披... 其... 面... 皮... 示... 誠... 陸... 日... 已... 憂... 符... 日... 後... 漢... 耿... 秉... 卒... 囚... 奴... 慎... 勿

出口... 他人... 狙... 慎... 密... 其... 事... 恐... 為... 謀... 者... 所... 得... 哀... 哉... 王... 孫... 慎... 勿... 踈

據... 况... 竹... 舒... 翰... 領... 方... 兵... 守... 潼... 關... 也... 舊... 都... 謂... 長... 安... 也... 朔... 方... 健... 兒... 好... 身... 手... 日... 稀

奉... 贈... 李... 八... 丈... 判... 官... 鶴... 日... 詩... 云... 秋... 枯... 洞... 庭... 石... 風... 颯... 馬... 沙

我丈時英符宗枝油堯後神堯祖也珊瑚市則無珠曰

至珍也非市 標格秀氣衝星斗珠曰 八駿中有之故曰人得符早年見

蘇曰曹顏遠思友詩精 義測神與清機發妙理官寫自正獨守頃來樹嘉政皆已傳

衆口艱難體貴安冗長吾敢取珠曰 言於艱難之際能脫

長中以人者亦可采取 猶歷試炯炯更持父討論實解頤操割紛應手珠曰

機文賦云今言為政本分之外其如物之冗長者吾不取之 區區

臣衡曰臣說詩解人願法使人笑不能 篋書積諷諫宮闕限

止也 奔走則限不 入幕未展材珠曰

作懷憂符曰右按晉史都超在桓溫幕下 乘釣孰為偶珠曰

安在外望見起曰都生可謂是入幕之賓也 衡之詩云乘國

之釣詩作相也 所親問淹泊汎愛惜衰朽論語

廣庭茂泛愛遂以 垂白亂南翁委身希北叟論曰

後福淮南子北叟失馬又昔甲之北叟曰此何詐不為禍家富馬良其子

馬將駿馬而歸人皆賀之對曰此何詐不為福居數年胡夷大入丁壯者

皆控弦而戰 前漢項籍使史記增說項梁云南公備曰楚雖三戶云秦必楚法云南

公南方之老人也北叟出班固幽通賦云北叟頗識其倚伏則指塞

上之翁為北叟也舊注引淮南子遂轉寒上之翁為 真成窮轍鮒

珠曰 轍中水之活 或似喪家狗珠曰 孔子世家 秋枯洞庭石

莊周求斗水之活 風颯長沙柳高興激荆衡知音為回首珠曰

艇長沙荆與衡皆相連之地 船載鐵網下水取之騏驎驛珠曰 治聞記佛林國出珊瑚生水底大

人所稱有曹顏遠思友詩清 能守官忠正所親言李與杜珠曰 陶唐氏南翁南自稱言寓居荆南

也北叟塞 別李義珠曰 委身之病 希慕乎北叟洞庭

長沙皆荆南 表昆魚非李位同出陶唐氏詩云 外官賤殊乃與義為

山雲雲昏正宜且聚集恨此當離樽當置

道編在大曆二年正月公已出峽不應與
義聚集於三歲春夏之交當是二年二月未作

神堯十八子十七工其門道國及伯一作舒國實惟親

弟昆險曰祖二十二子道王元慶舒王元名衛懷王玄霸楚哀

有十八子宗天下故先薨太子道成巢王元吉以事誅詔除籍故止言

忝諸孫趙曰詳味詩意則子義若道國之裔孫而公則舒國後裔

語鶴曰彥輔之說是蓋有中表外表故云自謂忝諸孫則

公之父祖雖是舒國之外孫而於道國亦可謂之孫也文人嗣

王業趙曰文人指言李義之也嗣王業則繼嗣前之子白玉

溫謂其溫如玉也道國繼德業請從文人論趙曰申言文

後其能繼其德業者請從李義之父言之也文人領宗卿正卿也肅穆古制敦

馬曰肅穆敦和貌古制敦謂敦厚宗族也鶴曰唐宗室世系表道國

之後為宗正卿二曰微曰諫未詳義之父為誰又道王元慶傳

云有先朝納諫諍馬曰先朝直氣橫乾坤子建文章壯

河間經術存明經術獻禮樂建二離之教溫克富詩禮

希曰溫一作爾骨清慮不喧洗然遇知己談論淮湖奔諒曰

論鋒起若淮湖奔往不可涯淡也蘇曰梁衡曰見憶昔初元時

王戎談論如淮湖頃注源流莫可擬比而測掩也

小襦作縹縹芳孫縹曰文選芳孫紫綺為上襦襦袴也縹曰

過秦論云寒者利短褐注曰一作短小襦焉注支派文選五言詩為

七字云芳孫紫綺為上襦何輒附會如此鶴曰霍光傳璧珠璣玉衣

師古曰漢儀注以玉為襦如鎡狀連綴之以黃金為縵匈奴服傳縹

裕綺衣長襦錦袍各一叙傳在於綺襦縹袴之間晉灼曰白綺之襦

冰純之縹也並貴戚子弟之服觀此則襦不可以為袴又百姓最廉

范曰平生無襦今五袴則襦不於袴也楚辭湘君注孫芳草當是繡

如繡於襦上長成忽會面慰我父疾塊二峽春冬交江

山雲霧昏正宜且聚集恨此當離樽莫怪執盃遲我

衰涕唾煩陳曰王仲宣詩血行遲解朝涕唾流珠沫趙曰舉杯怪

是訴主人益重問子何之西上岷江源陳曰順流為

自夔入蜀流願子少干謁蜀都足戎軒誤失將帥意

也故曰西上也陳曰甫不能脫嚴武之暴少年只歸來梅

不如蜀故恩陳曰甫不能脫嚴武之暴少年只歸來梅

若已飛翻努力慎風水日言世苦風波也趙豈惟數盤
殮猛虎卧在岸蛟螭出無痕人者言此皆譏時王子自
愛惜老夫河石根生別古所嗟發聲為爾吞子翻李
義也困石根言不得其地也吞聲言聲出而復吞也

贈特進汝陽王二十韻

父棟王瑛瑛玄宗第四子也瑛如韋氏少師之女也新注按唐史讓皇帝長子璿封汝陽位特進僕位秘書監此詩乃贈璿非璿也璿已見入哀詩云璿曰璿讓皇帝子新史書贈太子太師不書特進失之舊史言小特進贈太子太師與公詩合趙曰公入哀詩太子太師汝陽王璿曰汝陽讓帝子而舊注又以此為棟王瑛之子何自眩惑也此詩在八哀詩所贈之先蓋其特進時耳特進正二品而太子太師從一品也鶴曰舊史云大寶初終父變心特進九載卒新史不言加特進而梁權道編在十一載非蓋讓皇帝憲以開元二十九年十一月薨併加璿特進此詩當在天寶五六年間公壯遊詩是開元二十四年下考功第去遊齊魯八年則歸長安在天寶四五載間詩云賞遊賞賢王則從汝陽之遊蓋在

天寶五六載間此詩作於其時

持進群公表

位持進在三公下持進漢官也三漢魏晉以官表儀表也希曰帝用太子外祖許廣漢為平恩侯位持進後漢皇

典天人夙德升

所知數值之才謂之天人夙早也霜蹄千里

駿

深曰武帝謂夙德為千里駒師古

服禮求毫髮

無纖毫違背

聖情常有眷朝退若無憑

挾責也

仙醴求浮蟻

一作醴

奇毛或賜鷹

楊素曰隋文帝賜清闕鹿不雜

中使以相乘

晚節嬉游簡平

居孝義稱自多親

傳玄宗於興慶宮西南置樓四面題

日花亭相輝之樓諸王踐之斤中使相望或近郊從禽或別酒

待其父之事此詩雖述宗卷之誰敢問山陵王蒼傳帝欲為

原陵上疏諫帝從而止學業醇儒富記不能為醇儒辭華

哲匠能秦曰殷仲文詩筆飛鸞聳立章罷能鳳騫騰羨其

也書翰精理通談笑皆精於理忘形向友朋深曰不寸賜

堪繾綣豈曰板詩以謹一諾豈驕矜深曰一諾已忝歸

曹植一深曰見天人何如對李膺深曰後漢杜密傳黨錮事起

故時人亦稱李杜前有李固杜喬故言亦也范滂母曰汝招要恩

屢至一節曰要崇重力難勝而禮意崇重非力所能勝也披

霧初歡夕深曰德雖見樂廣曰見此人高秋爽氣澄滄溟壘臨

極涌鳧鴈宿張燈花月窮游宴炎天避鬱蒸石曰猶河

會現寒金井水古老傳金人以杖撞地成井簪動玉壺冰

清如玉壺水深曰鮑明遠詩瓢飲唯三逕深曰顏巖栖異一勝

謝靈運詩栖謬持蠡測海深曰東方朔論以蠡測海張晏曰載

巖把飛泉况挹酒如澗鄭曰澗食陵切深曰左昭十二年

非公敵故云况挹酒如澗侯與齊侯宴中行穆子相投壺晉侯

先穆子曰有酒如淮有肉如坻寡君中此為諸侯師中之

日月酒如坻有肉如陵寡人中此與君代興亦中之豈曰澗水出

國臨淄縣鴻寶具全寧秘在雨有枕中鴻寶死秘書師古曰鴻寶

比入時水丹梯庶可陟深曰謝玄暉敬亭山詩

枕中存錄之不瀉也丹梯庶可陟要欲追奇趣即此陸

梯淮王門有客深曰有一作下淮南王安之善屬文天下

雷被晉昌時人及諸儒大山小山之徒終學不愧孫登深曰晉

共講論道德終學不愧孫登深曰晉

登傳初揚駿傲高士孫登遺以布被登截被於門大呼曰所刺

後果如其言黎余幽憤詩曰昔所刺

登調之璣無愧

於南故云

奉漢中王手札鶴曰詩云剖符來蜀道歸蓋取荆

京今將出城作書報公而公復以此詩詩又云主人留

上客避暑得各園淹泊俱崖口東西異石堪當是王在

得州為六字自度夏而公在雲安也故詩入云

國有乾坤六子才叔父尊宋曰子代宗之叔父也剖死蜀道

歸蓋取荆門宋曰表陵有荆門山其狀如峽險通舟過江

長注海奔主人留上客避暑得名園趙曰主人前後

緘書報分明饌玉恩王暕曰左思兵都賦云其宴居則朱服

鑿日天雲浮絕壁風竹在華軒趙曰言名已覺良宵

亦何看駭浪翻宋曰海賦驚雷奔駭水迸集入期朱邸雪

朱曰唐制諸侯各置邸京師故有邸吏朝旁紫微垣宋曰晉志

朱曰言邸有朱戶以冬為入期故言雪朝旁紫微垣宋曰晉志

天子之所居也枚乘文章老趙曰西京雜記枚乘文章敏疾

之間年河間禮樂存宋曰漢景帝時河間獻王德武帝時來朝

術悲秋宋玉宅宋曰哀江南賦誅茅宋玉失路武陵源宋曰

見如逢沈薄俱崖口東西異石根夷音迷咫尺宋曰

語多鬼物傍宋曰一黃昏宋曰蕪城賦木鬼犬馬誠為戀

宋曰曹子建表勝犬馬戀主之情文記狐狸不足論

宋曰張綱傳豺狼從容草奏罷宿昔奉清罇

戲題寄上漢中王三首宋曰時王在梓州初于乃

案漢中王傳肅宗詔收羣臣馬助戰瑒與魏少遊持不

可帝怒貶蓬州長史而舊史魏少遊傳云率羣臣馬在

乾元二年十月今詩云成都老客星一別五秋燈謂公

自乾元六年出華州時與王別至寶應元年為五年則

公是年在成都故曰成都老客星而趙註謂此梓州詩

為非王註謂王時在梓州亦非蓋詩云不能隨皂蓋則

王尚在蓬州雖當更代而道梗未得歸故詩又云羣盜

西漢親王子

宋曰王推皇帝之子汝南王璠弟也蔡邕獨

漢天子稱皇帝故以王號加之撫名諸侯王封德勳

日漢所封惟帝子若親昆弟其屬遠非大功不立成都老客星

光武同宿史占

宋曰公自喻中百年雙白鬢一別五愁宋曰一

螢則歲五換忍斷蘇曰吳留物誠飲阮旨好飲酒因醉蘇曰吳不能隨

其背曰看看一遍瘋漢忍祗看座右銘蘇曰崔子不能隨

皂蓋蘇曰皂蓋指漢中王也漢二千石朱輔皂蓋希曰漢中王與星如刺史車豈皂蓋亦然耶自醉逐浮萍

策杖時能出王門異昔遊已知嗟不起王

酒醉病未許醉蜀蜀酒濃無敵江魚

美可求終思一酪酏浮掃鴈池頭蘇曰西京雜記梁

羣盜無歸路衰顏會遠方尚憐詩蘇曰東

籍之敬言策猶憶酒顛狂魯衛彌尊重

策者猶憶酒顛狂魯衛彌尊重蘇曰語云魯衛之政兄弟

鎮徐陳略喪亡魏文帝與王粲書云徐陳應劉一時俱逝

空餘枚作故叟在應念早沐生

戲作寄上漢中王二首王

雲裏不聞雙鴈過掌中貪見一珠新孔融見韋乞謝靈

父書曰不音雙珠生於老蚌蘇曰馬秋風嫋嫋吹江漢

謝安舟楫風送起蘇曰謝安嘗與孫綽等泛海風起浪涌諸人

衡州送李大夫七丈勉赴廣州江西觀使入

張鎬後魏少游之前而游以大曆二年伐云鎬

廣德二年九月死則免為江西觀察使當是其年九月
觀率容州刺史王翊討平之則勉是四年秋冬之交赴
歸潭終歲舟居明年又自潭之衡今題門衡州蓋誤也
當作潭州

斧鉞下青真洙曰禮賜斧鉞然後殺蘇曰何敬祖將軍樓船

過洞庭洙曰漢南越作樓船北風隨爽氣洙曰登樓賦向北風而開

南斗避文星日月節中鳥洙曰潘安云池魚籠鳥乾坤水上萍王

孫丈人行洙曰南奴云漢天子賜李以節鉞樓船船上有樓櫓過洞庭遙連之廣州北風隨爽垂老見飄零師曰諸侯賜斧鉞然後誅殺青真天也言

天子賜李以節鉞樓船船上有樓櫓過洞庭遙連之廣州北風隨爽氣言自此而南常爽氣而來南斗避文星北斗以南公一人而戶籠中鳥局促不得騁子美客居局促如籠鳥飄泛如水萍山豈意垂老之年尚見飄零失所乎行音項傳也

送李幼曄鶴曰詩云王子思歸日長安已亂兵雷衣問

按宗至出系表曄大鄭王亭弟安志公琇之子終刑部侍郎

王子思歸日長安已亂兵時有雷衣問行在

走馬向承明趙曰承明漢殿名暮景巴蜀僻春風江

漢清晉山雖自棄魏闕尚舍情趙曰按宣室志載燕史有道士尹君者隱晉山不食

粟嘗餌柏葉此門從事嚴後故事之並子言身在江湖之上心遊魏闕之下

世胄

古詩四首

律詩二首

寄狄明子鶴曰詩云胡為漂泊漢間當是在夔州作又云不見十年官澄澄當是避亂時相別自

天寶戊戌至大曆丁未為十年蓋大曆二年也

梁公曾孫我姨弟洙曰狄仁傑封梁國公不見十年官濟

濟大賢之後竟陵渾浩蕩古今同一體比看伯叔四

十人有才無命百容底洙曰沉今者兄弟一百人幾

人卓絕秉忠禮洙曰魯秉周禮未可動也言猶守先王法

度也此詩言兄弟雖多
能守梁公之法幾人
汝更用文章為長兄白眉復天

啓朱曰馬良兄弟五人並有才名鄉里諺曰馬氏汝門請從魯

公說公也太后當朝多巧計狄公執政在末年濁

河中不汚清濟宋曰言獨立於朝不後於眾邪謂曰謝玄暉國

嗣初將付諸武公獨廷諍守丹陛宋曰武后當朝革唐為

禁中冊決詔房陵宋曰房陵中宗所在前

太宗社稷一朝正漢官

威儀重昭洗宋曰后嘗夢雙陸不勝仁傑對曰雙陸不勝無子

時危始識不世才蘇曰揚脩

誰謂茶苦甘如薺宋曰衛風谷風詩誰

汝曹又宜裂土食身使門戶多旌榮宋曰裂土一作列

有波秋風蕭蕭露泥泥宋曰謝靈運詩凝露方泥

下嶢巖之橫出清此早歸來黃汗人衣服易眯宋曰

漢間干謁王侯頗歷詆宋曰詆訐也息夫况乃山高水

延壽傳延壽傳注有衣之戟其衣以赤黑縵為之

也子虛賦也子虛賦注有衣之戟其衣以赤黑縵為之

胡為飄泊岷

况乃山高水

有波秋風蕭蕭露泥泥

下嶢巖之橫出清此早歸來黃汗人衣服易眯

漢間干謁王侯頗歷詆

延壽傳注有衣之戟其衣以赤黑縵為之

也子虛賦注有衣之戟其衣以赤黑縵為之

胡為飄泊岷

况乃山高水

有波秋風蕭蕭露泥泥

下嶢巖之橫出清此早歸來黃汗人衣服易眯

送李校書二十六韻

鮑曰李舟也國史補言舟好

教如周孔教如周孔則已則已有則小入則其人可知公固極

稱道稱道鶴曰按唐宰相世系表李舟字公受為凌州刺史

隴西縣男今詩云乾元元年春禹姓始安宅當是其年

在諫省時作

汝曹又宜裂土食身使門戶多旌榮宋曰裂土一作列
有波秋風蕭蕭露泥泥宋曰謝靈運詩凝露方泥
下嶢巖之橫出清此早歸來黃汗人衣服易眯宋曰
漢間干謁王侯頗歷詆宋曰詆訐也息夫况乃山高水
延壽傳延壽傳注有衣之戟其衣以赤黑縵為之
也子虛賦也子虛賦注有衣之戟其衣以赤黑縵為之
胡為飄泊岷
况乃山高水
有波秋風蕭蕭露泥泥
下嶢巖之橫出清此早歸來黃汗人衣服易眯
漢間干謁王侯頗歷詆
延壽傳注有衣之戟其衣以赤黑縵為之
也子虛賦注有衣之戟其衣以赤黑縵為之
胡為飄泊岷
况乃山高水

度也此詩言兄弟雖多
能守梁公之法幾人
汝更用文章為長兄白眉復天
啓朱曰馬良兄弟五人並有才名鄉里諺曰馬氏汝門請從魯
公說公也太后當朝多巧計狄公執政在末年濁
河中不汚清濟宋曰言獨立於朝不後於眾邪謂曰謝玄暉國
嗣初將付諸武公獨廷諍守丹陛宋曰武后當朝革唐為
禁中冊決詔房陵宋曰房陵中宗所在前
太宗社稷一朝正漢官
威儀重昭洗宋曰后嘗夢雙陸不勝仁傑對曰雙陸不勝無子
時危始識不世才蘇曰揚脩
誰謂茶苦甘如薺宋曰衛風谷風詩誰
汝曹又宜裂土食身使門戶多旌榮宋曰裂土一作列
有波秋風蕭蕭露泥泥宋曰謝靈運詩凝露方泥
下嶢巖之橫出清此早歸來黃汗人衣服易眯宋曰
漢間干謁王侯頗歷詆宋曰詆訐也息夫况乃山高水
延壽傳延壽傳注有衣之戟其衣以赤黑縵為之
也子虛賦也子虛賦注有衣之戟其衣以赤黑縵為之
胡為飄泊岷
况乃山高水
有波秋風蕭蕭露泥泥
下嶢巖之橫出清此早歸來黃汗人衣服易眯
漢間干謁王侯頗歷詆
延壽傳注有衣之戟其衣以赤黑縵為之
也子虛賦注有衣之戟其衣以赤黑縵為之
胡為飄泊岷
况乃山高水

代北有豪鷹師曰大鷹也生子毛盡赤李舟也溼注其驥

一作種驥曰東方朔曰良馬也尤異是龍脊一作虎也李舟名

父子清峻流輩伯人間好妙年不必須白哲趙曰左昭

甫堅曰有君十五富文史十八足賓客十九授校書二

十聲輝一作赫眾中每一見使我潛動魄自恐二男

兒辛勤養無益秦曰二子一曰宗文一曰宗武乾元元二

年春萬姓始安宅蘇曰萬姓始安厥宅鶴曰肅宗以至

德二載十月癸亥至靈武乾元元年安慶緒將元皓且降免陷舟也

衣綵衣趙曰列女傳老萊子孝養二親告我欲遠適倚門固

有望歛衽就行役深曰詩父曰嗟予子行役趙曰戰國策齊王

而望汝暮出而不還則吾倚門而望南登吟白華深曰白華孝

已見楚山碧蘇曰景差至蒲騷見宋玉曰不意重九故人慰此

馬曰陶淵明勸農四言云敢不歛衽南登吟白華深曰白華孝

明會又會故人開曰心足矣諶諶咸陽都冠蓋日雲積深曰張景陽諶

古雍郡也冠蓋上大何時太夫人朱曰文帝紀列侯妻補夫人

太夫堂上會親戚深曰潘安仁閑居汝翁草明光深曰武帝紀

太初四年秋起明光宮凡掌制誥文字謂之視草趙曰後漢尚書郎

直宿於建禮門奏事明光殿下筆為詔誥出語為詔今在唐則中書

舍人也汝翁當是名岑然水部郎中眉州刺史天子正前席

歸期豈爛漫別意終感激顧我蓬屋妾蘇曰曹子建詩

晚節歲一作慵轉劇每秋悔文足作如覺天地窄羨君若齒

髮新行已能夕深曰易乾卦臨岐意頗切對酒不能

喫對酒不能迴身視綠野慘澹如荒澤老鴈忍春

飢哀號待枯麥趙曰漢時語大時哉高飛燕綉練新羽

西都古界褒斜龍坡之險修可曰後漢子午道通褒斜谷各南谷名褒比谷各斜七百里鄭子真所漢中褒

斜余漢水饒巨石斜石門銘云皇魏正始元年漢中褒

於漢水東南流為沔水至漢中東流無令軒車遲思君古詩

老軒車衰疾悲宿昔別曰甫與舟有宿昔之權當老而有此

入奏行彥輔曰贈西山檢察使唯有怨察親察按察之名

而已然歐陽詹集乃有送韋檢察詩又似史失善梁權

道編在廣德二年成都詩內詩云綉衣春日當香葉若

是二年春則在梓闈送具入奏却不在成都詩又云天

子亦念西南隅則是西山諸州未沒吐蕃前作故詩又

云八州刺史思一戰二成守邊却可圖此行入奏計未

小密奉聖旨思宜殊詳觀詩語乃是寶應元年春在成

都作蓋廣德元年二年春公俱不在成都無容詩却云

江花未落還成都肯訪浣花若翁無以為二年春在梓

州閬州作是詩公知嚴武再鎮成都期於以歸浣花

有此語然八州又已沒於吐蕃故定為寶應元年也

侯博考

寶侍御驥之子鳳之雛修可曰扣譚新論曰善在馬者曰驥

公得馬惡貌而正走其名驥子又易

林日鳳生五雞希曰梁元帝啓云價足龍媽聲有異子又龐統者德

公之從子德公謂為鳳雛晉陸雲勿時吳尚書閔鴻見而奇之曰此

兒若非龍駒當是鳳雛北齊裴景鸞景鴻河

東聞喜人並有說才河東人呼景鸞為驥子年未二十忠義俱

骨鯁絕代無骨鯁者剛正之謂蓋內之有骨魚之有鯁烟

一段清冰出萬壑顛曰炳也置在迎風寒露之玉壺

僕有迎風寒露之節古詩蔗漿歸厨金盃凍溲曰晉張協蔗

漿湯若蔗醪而含蜜右按前漢書禮樂志秦尊和漿取甘和才以為

飲也蔗漿和同趙曰宋玉招魂云燭醴炮羔有蔗漿定切曰前莫豐

樂志景星歌秦尊和漿析朝醒主取甘和才以洗滌煩熱足以

寧君軀政整一作用疎通合典則威聯豪貴耽文儒兵

革未息人未蘇天子亦念西商陽吐蕃憑陵氣頗麤

朱日時吐蕃欲實氏檢察應時須運糧繩橋壯士喜

直之士若莫之有鯁肉

有骨

有骨

有骨

有骨

有骨

有骨

有骨

有骨

有骨

有骨

有骨

和學其竹同竹同上有
其跡也者曰雀眼坑
前服也

方城在蓬州公即八州刺史思一星三守邊去可區
指蓬州火井而言
趙曰四山三城也鶴曰按唐魏南節度使西抗吐蕃南撫蠻僚統
團營文松維隆恭雅黎姚悉等八州兵馬三城當是日海三城
此行入奏計未小密奉聖旨恩宜殊繡衣春當霄漢
立漢綉衣綵服日向庭闈趨
郎京尹必俯拾蘇曰薛光祿友江花未落還
成都肯訪浣花老翁無宋曰二云公來為君酌酒蒲眼
酤與奴白飯馬青莧宋曰又云携酒肯訪浣花老翁為君酌酒
都為東府竇氏以御史出檢察諸州軍儲器械得以便宜入奏甫作
是詩以贈之驥子鳳雛皆不凡也逆耳之言比之骨硬漢武帝置迎
風寒露之館玉壺貯冰言其瑩徹也兼業可以除煩天子方憂吐蕃
不無內熱今竇生入奏忠言上沃帝心如蔗漿然疎通其施為無所
蔽也太宗皇后竇氏侍衛正其故云成熾然雖云外戚尤不
儒學西南隅謂蜀也須乃軍興所須也蜀人以竹索為橋謂之繩
地理志邛州有火井縣在州西六十二里斬木將以為橋
今既盡斬之則依窮而失所是以號浮八州謂彭加黎簡嚴隆
三城謂姚維松皆當吐蕃之衝兵有攻有守八州可攻三城可守
其事於朝廷以取天子之命甫謂必蒙殊恩省郎京尹如俯拾也

行色秋間可還成都故云江花未落也漢暴勝之衣綉衣
出使故云綉衣春當霄漢立立謂立對於天陛甫築草堂居成
花里自稱浣花翁滿眼酤謂滿前士卒皆有勞也甫約竇歸不
寒賤儻賜光訪當酌酒宴集下至車從僕隸皆待以殊禮美
重於寶故也

徐卿二子歌

鶴曰公至成都時徐知道為西川兵馬使上元二年七月反徐卿或者為知道

君不見徐卿二子生絕竒感應吉慶相追宋曰詩吉

熊維孔子釋氏親抱送並是天上麒麟兒宋曰徐陵年

見寶誌上人誌以手摩大兒九齡色清徹宋曰揚子吾家之

頂曰天上石麒麟也宋曰揚子吾家之

舉小兒揚德祖故公屢用也秋水宋曰揚子吾家之

岳謂客曰此兒神如秋水小兒五歲氣食十宋曰子虎豹

午之蒲堂賓客皆迴頭宋曰謝希說月賦滿吾知徐公

日不愛積善袋袋生六公侯宋曰易積善之家必

和琴其竹同竹同上有
非其語也者曰蒲服也
竹非也

方滅在蓬州公即八州刺史思一
指蓬州火井而言

團團四山三城也鶴曰按唐
文松維蓬恭雅黎姚悉等八州兵馬三城當是海三城

此行入奏計未小密奉聖旨恩宜殊繡衣春當霄漢

立漢綉衣綵服日向庭闈趨

郎京尹必俯拾

成都肯訪浣花老翁無

酷與奴白飯馬青芻

都為京府寶氏以御史出檢察諸州軍儲器械得以便宜入奏甫作

是詩以贈之騷子鳳雞皆不凡也逆耳之言比之骨硬漢武帝置迎

風寒露之館玉壺貯冰言其登徹也

不無內熱今寶生入奏忠言上天帝心知庶幾然疎通其施為無所

蔽也太宗皇后寶氏侍御正其故云威靈豪貴雖云外戚尤

儒學西南隅謂蜀也須乃軍興所須也蜀人以竹索為橋謂之

地理志邛州有火井縣在州西六十二里斬木以為橋

今既盡斬之則依窮而失所是以號浮入州謂彭加黎簡嚴陸

三城謂姚維松皆當吐蕃之衝兵有攻有守八州可攻二城可守

其事於朝廷以取天子之命南謂必蒙殊恩省即京尹如俯拾

重於寶

故也

徐卿二子歌

如荆南兵馬使大常趙卿是

也後舊以為上元二年作

君不見徐卿二子生絕音感應吉慶相追

隨

熊維孔子釋氏親抱送並是天上麒麟兒

見寶誌上人誌以手摩大兒九齡色清徹

頂曰天上石麒麟也

玄文曰彌爾有云大兒孔文

舉小兒楊德祖故公屢用也

秋水

小兒五歲氣食牛

吾知徐公

日不可愛積善

袋袋生六公侯

王兒有如離俗必如尺男子夫者廣也言其知能膚敏弘毅也

首甲微王充論

贈虞十五司馬鶴曰梁權道編在大曆二年公安詩

作則公已五十七歲當如暮歸詩云於此云百年嗟過半今不云過而云已意見上元寶應間在浣花作故云沙岸風葉雲月月上軒若在公安則未嘗舍舟所謂維舟倚前清是也

遠師虞秘監世今喜識玄孫形象丹青逼家聲

存深曰見炬赫舊家聲注蘇曰龐 凄凉憐筆勢浩蕩問辭源

爽氣金天豁深曰王子猷西山 清談玉露繁

北溟鯤深曰莊子北海有魚 交態知俗深曰鄭莊傳

初態儒流不異門深曰儒者流 過逢連客位深曰別賦

生日夜倒芳樽沙岸風吹葉雲江月上軒深曰別賦

百年嗟已半四座敢辭喧蘇曰南史王筠沈約見筠文咨嗟而嘆曰昔蔡伯喈見王仲言無一

同豆盧峯貽主客李員外賢子棊知字韻鶴曰按唐宰相表豆盧本姓慕容氏北人謂歸義為豆

練金歌冶子噴玉大宛兒深曰張景陽七命楚之賜劍歐冶

子作劍鍊五山之精合六金之英煉而為劍 定功曰穆天子東游黃

馬子註孟康曰言大宛國有高山其上有馬不可得因 符彩

尚無田曰曹子建七啓曰符彩照燭魏文帝車渠 符彩

聰明向揚榮趙曰傳以乘與馬賦曰符采橫發大率言符光

日交七十而老
日交七十而老
日交七十而老

爛熳通經終
光芒刷羽儀

爛熳通經終
光芒刷羽儀

謝庭瞻不遠

謝庭瞻不遠
謝庭瞻不遠
謝庭瞻不遠

於斯

於斯
於斯
於斯

和將鷓鴣曲田翁號鹿皮

和將鷓鴣曲田翁號鹿皮

宗族

古詩六首

律詩三十一首

狂歌行贈四兄

與兄年校一歲賢者是兄愚者弟兄將富貴等浮
雲弟切功名好權勢長安秋雨十日泥我曹備馬聽
晨雞公卿朱門未開鎖我曹已到看相齊吾兄
方舒膝不襪不巾踏曉日男帝女哭莫我知身上首

縉腹中實今年思我來嘉州嘉州酒重花繞樓樓頭
喫酒樓下卧長歌短詠還相酬四時八節還拘
拜弟妻舅拜弟幅巾繫帶不掛身頭脂足垢何魯洗

修河曰南史陰子春字幼文身脂垢牙脚數年一洗言每洗則失財
敗事一在涿州因洗足致涿州敗事美云足垢何曾洗則又甚於數
年一洗吾兄吾兄巢許倫一生喜怒長任真日斜枕

肘寢已熟啾啾唧唧何為人

遣興二首
鶴曰詩云地卑荒野大天遠暮江遲不當是
成都詩當是乾元二年秦州作而舊次與梁

千戈猶未定弟妹各何之
疎曰言亂奔
散不知其所武溪霑襟血

梳頭滿面絲
隨日以思憶
而痛悼之極地卑荒野大天遠暮江遲
疾疴
一作時蘇曰登廬送子南遷執手悵
恨久之語曰汝去萬里吾殘喘如桑

榆未早
時

手今日夜多詬弟名

不知死與生何況道路長

陸曰益 謂良友遠別雖

在天一方山海隔中州相去悠且 避寇

一分散飢寒永相望

無柴門歸欲出畏老死狼仰看

雲中鴈禽鳥亦有行

陸曰傳休奔詩 仰觀鴈南翔

得舍弟消息

鶴曰其弟在河南而分西去故云猶有 洪成河經天復東注當是乾元元年在

華州

風吹紫荆樹色與春庭暮花落辭故枝風回反無處

陸曰周景式孝子傳曰古有兄弟念欲分異出門見三荆同株按葉

連陰歎曰木猶欣聚泥我而殊哉又田真兄弟欲分其夜庭前三荆

便枯弟數之 却合棧還榮茂 骨肉恩書重漂泊難相遇猶有淚成河

經天復東注

陸曰世說人問顧長康哭桓帝武之狀如何曰鼻如

醉歌行

陸曰甫從姪杜勤落第歸南作此以別之鶴曰

長安作按十三載秋八月上御勤政樓試四科制舉

人前此十二載秋七月詔天下舉人不得御貢須補

後貢舉

陸機二十作文賦

陸曰晉陸機字士 汝更小年能綴文

劉歆傳贊 總角草書又神速世上兒子徒紛紛

角中子二十國春秋封秀總角知各衛介總角乘羊車入市趙曰草

書以臣為上所謂匆匆不及草書是也以速為神所謂一筆變化書

是驊騮作駒已汗血驚鳥舉翮連青雲

陸曰汗血事見 傳驚鳥累百詞源賦

賦一作 倒流三峽水

陸曰海賦吹壺則百川 筆陣獨掃千人軍

修司曰王羲之 只今年纔十六七射策君明期第一

師古曰射策者謂為問難辨義書之於策量其大小署為甲乙之科

列而署一不使章顯有欲射日隨其所取得而擇之以知優劣射之

言投射也對策自顯問以政 京師不學已而對策第一高舊

穿楊葉真自知善射者周本如蘇厲言也去折葉百步而射之百發而百中之

枚乘諫吳王書曰養由基楚之善射者去楊葉百步而射之百發而百中之

為失頌過都越國王聖王得賢臣偶然擢秀非難取會是排風

有毛質也而從姓之不中第何哉然會當是時排擊風露汝身已見唾成珠

終有連雲之毛質馬此賦之狀曰浴雨排風汝身已見唾成珠

如霧雜而下者不可勝數蘇曰江淹謂郭鞏曰子之咳唾成珠玉吐

右按後漢趙壹傳咳唾成珠玉汝伯何由髮如漆謂勤

章矢口已成珠玉他日必貴但恨年老頭春光淡施秦東亭

白無由再黑如漆傷不及見勤之官貫春光淡施秦東亭

可切河日淡池即淡湯也秦東亭渚蒲牙白水荇青梁

上言蒲詩發步遵河渚詩參差荇菜綠云荇菜菜也陸機云蒲在水

草也澤陂傳曰蒲草柔滑左傳曰重陂之蒲蒲即楚也爾雅云荇接

正圓徑寸餘根生水底浮在水上類氏風吹客衣日杲杲梁

獨詩伯兮樹攪離思花真真蘇曰焦光仲遜共遊陸渾時春

景杲出日楚辭山鬼雷填填兮雨冥冥酒盡沙頭雙玉

瓶眾實已醉我獨醒蘇曰屈原曰舉世皆獨惟我獨清乃知

貧賤別更苦蘇曰衛宏失音送弟遷嶺外氣塞臆而吞聲躑

躑涕泣零蘇曰古詩泣涕零如雨又沉吟踟躕行不進貌陸士

木石豈無感吞聲躑躅不敢言何曰躑躅行不進貌在鼻曰涕在眼

離別故云更苦

示從孫濟度輔曰此詩譏風俗衰薄雖同好不能無疑

無事宅舍如荒村則濟所居在長安當是天寶

平明跨驢出師曰驢賤者所跨希曰未知一依適誰門權

門多噴踏師曰詩十月噴背背憎職競由人噴踏猶相對談

且復尋諸孫師曰權門乃權貴之門詩云尋諸貴背背憎

社詩注云

諸孫貧無事宅舍如荒村堂則自生竹堂後

自生菅草草秋已死疎草今人忘憂昔北堂也陶米

少汲水汲多井水渾刈葵莫放手放手傷葵根鮑明遠樂府腰鎌刈葵藿古詩採葵莫傷根傷根矣不生結交莫羞貧羞貧友不成類曰族之有宗猶水之有源勿渾之而巳葵有根勿傷之而已阿翁懶墮久覺兒行步奔阿翁自稱兒指齊行步奔言其強所來一作求為宗族亦不為

盤飧陳曰左傳僖二十二年晉公子及曹僖負羈之妻饋盤飧小人

利口實陳曰顧自求口實薄俗難具論蘇曰劉章曰薄俗難具論勿受外

嫌猜同姓古所敦鮑明遠詩明慮自天斷不受外嫌猜

寄從孫崇簡厲曰詩云嗟峨白帝城東南有龍湫

嗟峨白帝城東南有龍湫北虎溪吾孫騎曹不記

馬修可曰世說王子獻為桓仲騎曹參軍桓問曰卿何署答曰不知何署時牽馬來似馬曹人所管幾何曰何由知數又問馬死多少曰未知業學尸鄉多養雞雞欄詩註龐公隱時盡室去武陵春樹他人迷陳曰龐德公携妻子盡室入鹿門山武陵春樹桃源也漁人迷路而入與汝林居未相失近身藥裏酒長携牧叟樵童亦無賴莫令斬斷青雲梯陳曰文選註仙者以雲而升故謂之雲梯

憶第一首陳曰時歸在南陸渾在鶴曰詩云且喜河南定不問鄴城圍當是元元元年春作是時公

喪亂聞吾弟飢寒傍濟州濟州水名禹貢有人稀書不到

兵在見何由希曰漢書韓信憶昨狂催走

無時病去憂即今千種恨惟共水東流

在長安故詩又云東西消息斷謂公在西京而家在東也

相失似是大曆二一年作時在赤甲懷西也牧童一本作牧豎

陳曰狂催走謂

亂出奔如狂

人稀少而難行

傷曰以道路榛梗

兵在見何由

傳然則何由

憶昨狂催走

無時病去憂即今千種恨惟共水東流

在長安故詩又云東西消息斷謂公在西京而家在東也

相失似是大曆二一年作時在赤甲懷西也牧童一本作牧豎

陳曰狂催走謂亂出奔如狂

師曰濟屬山東第居水東故恨與水東流也

且喜河南定不問鄴城圍

德曰安慶緒棄東都走也

史思明所據鶴曰至德二載十一月克河南郡縣而相州一王

百戰

今誰在二年均平汝歸

言其室家之望汝也龜曰公自天寶十

四載乙未冬因亂而相別至乾元

戊戌是為三春故曰三年均平汝歸

息稀

日鳥還飛而人遭亂離不得相得爾

斷絕人煙又東西消息稀

得舍弟消息

鶴曰詩云亂後誰歸得他鄉勝故鄉

二元元年作

亂後誰歸得他鄉勝故鄉

蘇曰崔審與友人曰江南兵火全

卿何頻頻發吟思耶龜曰休明之際則它鄉雖

直保曰一為心厄

苦父念保曰一

與存亡龜曰以弟存亡在念也若

壁汝妾已辭房

保曰季陵書

舊大知愁恨垂頭傍我床

得舍弟消息二首

鶴曰梁權道編此詩在乾元元年

近有一作

平陰信

龜曰平陰

遙憐舍弟存側身千里道

得避賊不

寄食一家村

希曰韓信寄

烽舉新酣戰保曰烽

寇則舉

啼垂舊血痕不知臨老日招

韓戰戰酣日暮援戈而摩之

保曰韓信寄

得幾人時一作

汝懦歸無計龜曰懦

吾衰往來期

以傳烏鵲喜

保曰

深負鵲鴿詩

保曰常棣詩

生理何顏面

雖在命如絲

層曰言雖不死亦若絲

月夜憶舍弟

鶴曰詩云戍鼓斷人行秋邊一鴈聲當

雜記乾鵲噪

重見故人揣心撫膺夫何顏面

雖在命如絲

層曰言雖不死亦若絲

是乾元二年春

月夜憶舍弟

是乾元二年春

士詩生卷八

閬州東樓筵奉送十一舅往青城縣得昏字

鶴曰青城縣屬蜀州青城山記云至青城山有八大洞當是廣德元年初至閬時作故詩云是時秋冬交節往顏色昏蔡興宗亦以爲詩在此年作

曾城有高樓制古丹墀存宋曰書梓材既勤撲斲惟其塗丹墀注塗以漆丹以朱而後成趙曰

淮南子崑崙之山有曾城九重迢迢百餘尺宋曰西京賦狀迢迢以豁達開

四門雖有宋曰一作會車馬客而無人世喧宋曰陶淵明詩結廬在人境而無車

馬遊目俯大江列筵慰別魂宋曰謝靈運詩得以慰別魂是時秋冬

交節往顏色昏天寒鳥獸休宋曰登樓賦風蕭瑟而並與天慘慘而無色獸狂顧以求

群鳥相鳴而舉翼霜露在草根今我送舅氏宋曰沈休文詩草根積霜露詩渭陽我送

氏舅萬感集清罇宋曰謝靈運詩萬感盈朝昏豈伊山川間迴首盜賊

繁高賢意不暇王命文崩奔宋曰謝靈運詩折岸屢明奔臨風欲慟

哭宋曰賈誼傳聲出已復吞師曰此樓多是送客于此雖有事馬往來而無塵市稍遠故云而無塵世顏色昏

秋念却迴又云滿峽重江水開帆八月舟此時同一醉當在仲宣樓是大曆二年更作

汝去迎妻子高秋念却迴即今螢已亂女與鴈同來

東望西江水趙曰舊作水善本作東是蜀江謂之西江公設泛舟南下以楚之卜游而西江之盡處在其東故東

望其求詩江之求矣不可方思彥輔曰水當作求南游北戶開趙曰成南游則見北戶之開吳都賦云開北戶

日向卜居期靜處會有故人杯靜處期友人野酌放浪

日向卜居靜處當有故人之來

楚塞難爲路宋曰一作別藍田莫滯留衣裳判白露鞍馬信

清秋滿峽重江水開帆八月舟希曰重江謂江非一如北

下荆州此時同一醉應在仲宣樓趙曰王粲字仲宣劉表

故云舍弟觀赴藍田取妻子到江陵喜寄二首

鶴曰詩云朱紱即當隨綵鷁青雲不假報黃牛又云終營索共梅花笑冷蕊疎枝半不禁當是大曆二年冬作

明年正月
果出峽

汝迎妻子達荆州消息真傳解我憂鴻鴈影來連

內陳曰古詩茅鵲鴿飛急到沙頭陳曰詩鵲鴿在

志云本荆州南郡沙頭地燒關險路今虛遠修可曰燒關在

名亦在江陵今為要市燒關險路今虛遠作燒關音在

峽右漢書曰秦從高祖西攻燒關注在洛北藍田武關之西以觀赴

嬰謀劫高遣將將兵據燒關陳曰江漢巴東朱紱即

當隨綵鷁青春不假報黃牛

馬度陳曰一秦山雪正深北來肌骨苦寒侵他鄉就我

生春色故國移居見客心歡劇提携如意舞陳曰文君巡簷索

共梅花笑冷藥疎枝半不禁好作如意舞諸音亮出

庾信羅舍俱有宅黃曰庾信因侯景之亂自康道歸江陵居

以解舍喧擾於江陵城西三里小洲上立茅屋而居布衣蔬食晏如

也爾曰庾信宅即宋玉故宅見送李功曹之荆州詩註余知古諸宮

故事羅舍為桓温別駕以解舍喧擾於江陵城西三里小洲上立茅

屋伐木為床織葦為席而居布衣蔬食晏如也後安成王在鎮以其

宅借錄事朗之見一丈夫衣冠甚偉冰於而立朗之驚問忽然失

理志江陵有府一曰羅舍因羅舍居江陵因春來秋去作誰家

短墻若在從殘草喬木如存可假花下築應同鴉羽

徑陳曰二補快錄詩謂舍中竹下為園須似邵平瓜陳曰邵

美故世謂比年陳曰一病酒開涓滴弟勸兄酬何怨嗟

遠懷舍弟穎觀等陳曰詩云江漢春風起冰霜昨夜

陽翟空知處荆南近得書陳曰陽翟屬潁川郡

觀元年屬許州龍朔二年許州洛州會昌一年復屬許州詩作於大

曆二年則是時陽翟屬洛州洛即公之弟穎所與荆南即

讀得書迎就當陽居止是也逐別多難不安居

岑襄晉末兵戈王室多難
雖有高堂峻宇不得安居
起冰霜昨夜除雲天

猶錯莫花萼尚蕭疎
穎川周舍
對酒都近夢吟詩一憶

友弟起先考樓取常棟之華鄂
不釋釋乃燕兄弟之詩之意
對酒都近夢吟詩一憶

舊時六日會鄉黨羨吾廬
陶潛

詩亦
受言廬

續得觀書迎就當陽居止正月月中旬定出三

峽鷹曰當陽乃江陵屬邑詩云頌林

自汝到荆府書來數喚吾頌椒添諷詠深曰周庾信

來禁火卜歡娛深曰荆楚歲時記去冬節一百五日即有疾風

綏俱道子綏割排股以啖文公文公復國子綏無所得作龍蛇之歌

而隱文公求之不得乃焚左右木子綏抱木而死文公哀之令人五

月五日不得舉火今陸劇中記並云寒食斷火起於子推琴操所

定記並無介子推被火焚之事按周禮同桓氏仲春以木鐸備火禁

舟楫因人動形骸用杖扶

天旋雙子峽殊曰魚復古去近岳陽湖殊曰岳陽湖在巴

發日排南喜傷神散北吁

行序密嚼蘆殊曰春秋繁

俗薄江山好時片草

木蘇馮唐雖晚達終覲在皇都尚與晚達相曰馮唐公以

自比其也

乘兩入行軍六弟宅鶴曰行軍六弟即杜

曙角凌雲龜龍春城帶雨

今第雄軍佐尼材汗

分斬弱巢

得

公為

工部員外郎而
自謙之辭也

近中堂

第五弟豐獨在

三四載寂無消息

使寄此二首

鶴曰詩

年潮夕候

至大曆元年丙午為

亂後嗟吾在羈縻見汝難草黃騏驎病

駿則新采初過門曰霜勁草黃騏驎病矣騏驎何得快駛蓋君子不

得時小人自肆也少游一日來問曰細味上節詩皆拾古人句語綴

補作詩平穩交帖若神施鬼設腹中幾

難急楚設關城險誰敢不服君若以力楚國方城以為城漢水

其險固也 吳香水府寬 積水之多故云水府寬 十年朝夕

淚衣袖不曾乾

聞汝依山寺杭州定越州 謂日兵戈 江漢失 謂之風塵 清秋

影著啼猿樹 謂日兵戈 魂飄結 謂日兵戈 登樓

下春水東盡白雲求 謂日兵戈 送十五弟侍御使蜀

喜第文章進添余別興牽數孟巫峽酒百丈內江船

秋天 謂日兵戈 憶幼子 謂日兵戈 驥子春猶隔鶯歌

此詩當在至德二載春

隔則去年已隔至

春猶

元也

與之相

與之相

與之相

與之相

澗水空山道柴門老樹村州寄家之地憶渠愁只睡作

卧炙背俯晴軒恨不得見也

遣興

鶴曰詩云天地軍

驥子好男兒

也見宗武生日詩

前年學語時問知人

客姓誦得老夫詩公自謂也世亂伶渠小家貧壯慈

陳曰鹿門携不遂

陳曰鹿門携有願為道去

天地軍麾蒲山河戰

陳曰一期無期蘇武雁足繫書事見上

角悲儻歸免相笑見日

得家書

鶴曰詩云

敢辭逢

西郊白

露初

去憑遊客寄

出遊彼處客司之人

來為附家書今日知

消息他鄉且舊居

他鄉故知消息而喜耳

熊兒幸無恙

班固傳公君執事無恙爾雅曰憂也公孫弘傳何恙不已師

故早相見必相驥子最憐渠

驥子公

臨老羈孤極

謂流離

傷時會合踈

符曰以時

一毛趨帳殿

朱曰二毛謂

班固傳公君執事無恙爾雅曰憂也公孫弘傳何恙不已師

行在投左拾遺師曰周有一

北闕妖氛滿

朱曰北闕帝闕也妖

時安慶西郊白露初

涼風新過鴈秋雨欲

生魚

農事空山裏

眷言終荷鋤

種三南山下草盛豆苗稀晨興理荒穡

宗武生日

宗武小名驥子曾有詩云驥子好男

在大曆元年然詩云

山路風花白帝城則公在受時宗武未嘗不隨侍而詩

在梓州作是時家在成都也明年晚雖往問而家

是齊應
元年作

小子何時見

蘇曰王肅思男謂弟曰何時得見小子

高秋此日生自從都

邑語已伴老夫名

蘇曰禮自稱上曰老夫者

可足吾家事人傳世上

情願曰既以詩擅名

伊曰梁昭明太子賢集古人文詞詩賦為文選李善嘗受

文選於曹憲後遂解注文選十六卷

休覓絲衣輕

蘇曰列女傳曰老萊子年七十嬰兒自娛者五色

絲衣嘗以取漿水上堂跌仆因地為小兒啼或弄烏鳥於親側隨

曰老萊子者五絲衣戲於親側此言熟精文選理所以責望其子而

絲衣之輕使凋瘵筵初秩

蘇曰小雅賓之初筵也秩秩肅敬也海賦為周為蔡

歛斜坐不成流霞分片片

蘇符曰按抱朴子項曼卿修道山

輒不涓滴就徐傾

蘇曰河東項曼卿好道去家三十年而反曰

甚寒懷愴飢欲食輒飲我流霞一盃每數月不飢隋江惣為馮嗣仙賦翠羽流霞之杯使信有示內人詩定取流霞氣將添承露杯

抱朴子項曼自言至天上過紫府金珠凡見見是仙人以流霞飲之輒不飢渴王立之云項曼舊註又誤為曼卿故表出之

又示宗武

蘇曰按公至德元載遣興詩云驥子好男兒前年學語時則宗武在至德初方兩三歲命

詩云覓句新知律攤書解滿床蘇曰蘇紹新解覓句稍為首律王生曰詩後題云又示可知非大曆元年作亦明至德元

載至此十年宗武度方十歲故以十五男兒志期之若如梁編在大曆元年則誠十五歲矣才能知律攤書豈

公之子也故以同上篇為寶應元年作

覓句新知律攤書解滿床

蘇曰蘇紹新解覓句稍為首律王

難字 試吟青玉案

蘇曰張平子四愁詩美人贈我錦繡段何以報之青玉案

宋曰晉謝玄少好佩紫羅香囊叔父安患之而不欲傷其意因戲贈取焚之於此遂止

假日從時飲

蘇曰

宣登樓賦聊假日以銷憂

明年共我長

蘇曰蘇康節子紹曰

召其喜應須飽經術已似愛文章十五男兒志

蘇曰

吾十有五

三千弟子行曾參與游夏達者得升堂

蘇曰

孔子世家孔子以詩書禮樂教弟子

三千馬身通六藝

蘇曰

若七十有二人論語文舉子游于夏曰由也升堂矣

蘇曰

宴忠州使君姪宅

蘇曰詩云出守吾家姪則為杜使君也忠州唐屬山南道蓋近夔州

矣永泰

元年作

矣永泰

元年作

出守吾家姪

宋曰出守守殊方此日歡自須遊阮巷

晉阮咸與叔父籍為竹林之遊居道南諸阮居道北共阮而南阮貧也師曰阮咸比姪子美自比籍乃知叔姪之相得也

怕湖灘宋曰忠州下惡灘也樂助長歌免宋曰一杯饒旅思寬昔

曾如意舞宋曰王戎嘗以如意戲舞師曰如意者乃鐵如意石崇以鐵如意擊碎珊瑚樹即此牽率強為

看

示姪佐

曾曰佐草堂在東柯谷東柯在秦州公秦州雜詩有云草堂在東柯谷深藏數十家是也今以詩云多病秋風落

間道東柯谷深藏數十家是也今以詩云多病秋風落定為乾元二年九月作蓋十月公已入同谷世系表佐

是襄陽房殿中侍御史暉之子

多病秋風落

師曰七月秋風起八月風高九月風落

君來慰眼前白聞茅

屋趣只想竹林眠

師曰甫欲得

蒲谷山雲起侵籬澗水

懸嗣

一作

宗諸子姪早覺仲容賢

宋曰阮咸字仲容籍之姪也任達不拘與叔父籍為

之竹遊

佐還山後寄

同作二首二首見四園門鶴曰還山謂還東柯谷也同上年作

山晚浮雲合歸時恐路迷澗寒人欲到村里鳥應栖

野爨茅茨小田家樹木低舊諳疎懶叔須汝故相携

趙曰稽康性復疎懶

吾宗

衛倉曹曹簡鶴曰杜氏出初姓帝堯裔孫劉累之後在周為唐月氏成王滅唐以封弟叔虞改封唐

氏子孫於杜城故稱唐使君為族弟按世系表崇簡出襄陽房為益州司馬參軍正與公同宗後有寄從孫崇簡詩而今詩又云吾宗老孫子以其非若唐使君之為同族故曰吾宗後詩在大曆二年作則今詩當元年作

吾宗老孫子質朴古人風耕鑿安時論衣冠與世同

在家常早起

蘇曰劉崑常早起治蔬圃自力桔槔

憂國願年豐語及君臣

際經書蒲腹中

趙曰言凡語之及於君臣之際必反覆論議用其腹中之書而證明之也

外族

古詩二首

律詩六首

屬鶴曰詩云番禺親賢領謂李勉為廣州刺史當是大曆四年春岳州作詳見註

我之曾老姑爾之高祖母爾祖未顯時歸為尚書婦

朱曰新唐書王珪母李氏珪正觀十年拜禮部尚書修可曰西清詩話云唐王珪微時母李氏嘗云子必貴但未見與女遊者珪曰引

房杜過之母曰汝貴無疑所載止此賢之子美是詩我之曾者姑爾之高祖母則珪母杜氏非李氏也且一婦人識真主於側微其事甚

偉史闕而不錄是詩載之為悉世號詩史信不誣也 隋朝大業末房杜俱交友 趙曰

與房元懿杖如晦同學於文中子則交友可知矣 長者來在門荒年自餬口 陳曰

門多長者車轡左傳隱十一年餬其口於四方 家貧無供給客位但箕箒俄頃羞

頰珍寂寥人散後入怪鬢髮空吁嗟為之久自陳剪

髻髮鬻市充杯酒 朱曰晉陶侃母常剪髮具酒食延賓客 上云天下亂宜與

英俊厚向竊窺數公經綸亦俱有 趙曰王珪與元懿如晦善母李嘗曰兒必貴然

未知所與游者何如人曾元懿等過其家李窺大驚曰二客公輔才女貴無疑 次問最少年虬髯十

八九子等成大名皆因此人手下云風雲合龍虎一

吟吼願展丈夫雄得辭兒女醜秦王時在坐真氣驚

戶牖 趙曰秦王太宗也太宗有虬髯易曰雲從龍風從虎馬援曰乃知帝王自有真也 及乎正觀初

尚書踐台斗 朱曰珪正觀中 夫人常肩輿上殿稱萬壽

朱曰夫人以命婦預朝會也 六宮師柔順法則化妃后 蘇曰班姬著內訓訓六宮作女

箴頌誠化及妃后晉鶴曰三代之制諸侯之婦曰夫人唐外命婦之制文武官一品國公母妻為國夫人三品以上妻為郡夫人王珪貞觀

中為侍中唐侍中正一品則其母為郡夫人也通典云古者天子后立六宮三夫人九嬪二十七世婦八十一御妻以聽天下之內治又

鄭玄云帝嚳有四妃以象后妃四星唐因隋制皇后之下有貴妃淑妃德妃賢妃 至尊均嫂叔盛事傳

不朽鳳雛無凡毛五色非爾曹 趙曰古有鳳將雛之曲南史謝超宗作殺淑儀誅帝

大差賞謂謝莊曰超宗殊有鳳毛 往者胡作逆乾坤涕嗷嗷 朱曰謂安祿

吾客在馮翊爾家同遁逃 朱曰避亂也 爭奪至徒步塊獨委

蓬蒿逗留執爾腸十里却呼號自下所騎馬右持腰

間刀左牽紫游韉飛走使我高 朱曰公言避亂日輟白馬載我使走免難於危險之

音龍沾凌也天音霜
水石又音即水存端

中世蕭下童謠曰青青
御路楊白馬紫遊韁
苟活到今日寸心銘佩牢

也亂離又聚散宿昔恨滔滔
水花笑白首

登畫船反慮水花笑水花笑皆蓮
也趙曰公言在潭川濱於江故云
春草隨青袍

趙曰以言王評
廷評近要津節制收英髦

趙曰言南海節
度使幕中要賢

北驅漢

陽傳南汎上瀧船

右按嶺南人名急湍曰瀧趙曰傳郵馬之謂也自漢南而往故曰漢

陽傳以有使南海之役故曰瀧趙曰傳郵馬之謂也自漢南而往故曰漢

信也傳亦謂之祭或有有用編者終軍所棄是也高祖紀曰乘傳諸洛

陽此傳驛之傳也廣韻云南人名短而廣安而不傾危也北驅謂曰北

相接鶴嘗自柳之桂陽之益漿問舟繇賢水之源以達于南安之上

猶過所謂瀧者凡二蓋衆石束隘水自上湍源舟師藉羣力逆挽而

下上人稱之爲瀧生君未之見而問其說故有詩云溪注三龍險山

秀所 客意長東北齊州安在哉

諸姑今海畔兩弟亦山東

盧氏所出者適魏上瑜裴榮期盧正內皆前卒

來着道路通短衣防戰地

戰之匹馬逐秋風莫作俱流落長瞻碣石鴻

得舍弟觀書自中都已達江陵今茲暮春月

末合行李到夔州悲喜相兼團圓可待賦詩

即事情見乎詞

爾到江陵府何時到峽州亂離生有別

聚集病應瘳颯颯開啼眼朝朝上水樓老身須付

自雲云安遷
居夔州

騏驎於苑端轆歸臨
於碣石詩海畔山也

悲莫悲兮生別

託白骨更何憂

喜觀即到傷題短篇一首

鶴曰詩云應論十年事又云終南萬里春則是

觀自河南來也公乾元元年冬自華州之東都二年春尚留自元年至大曆二年恰十年當是大曆二年春

巫峽千山暗終南萬里春

書到汝為人

經戰伐新

欵欵話

待爾嗔烏鵲

閣嫌津柳

愁絕始星星

舍弟觀歸藍田迎新婦送示一首

謂離別之際慘澹無顏色也天寒鳥獸休息鳥獸尚得休息而人行役故傷之也霜露在草根此乃萬物歸根之時而舅氏未能室處尚往青城是以使我對酒不能無感懷也

閬州奉送二十四舅使自京赴任青城

鶴曰詩云聞道下夫向舅當是其舅為青城字青城

聞道王喬烏多口因太史傳如何碧雞使把切蹉索微天

定功曰王褒傳曰方士言益州有金馬碧雞之寶可祭祀致也宣帝使褒往祀焉

泛船

奉送崔都水翁下峽

無數涪江筏

終不父宗族忍相遺白狗黃牛峽

知公有意於到變矣

無切海申梓也

雲暮雨祠所過憑問訊過古未切到日自題詩

巫峽弊廬奉贈侍御四舅別之澧朗馮巨侍

澧州朗州也題曰巫峽弊廬而詩云赤眉猶世亂則是
在變作時崔旰倡亂有喪時為盜者故云當在大曆元
年作也

江城秋日日落山鬼閉門中行李淹吾舅深曰行李
猶行使也誅茅

問老公翁屈原誅茅赤眉猶世亂朱曰光武平
亂赤眉之亂青眼只途窮誅

阮籍善為青白眼以白傳語桃源客人今出處同
源在澧秦人避亂之所子美以今世之亂
庸避荆楚亦與秦人同出處也

王閬州筵奉酬十一舅惜別之作鶴曰詩云千
崖秋氣高當

是廣德元年九月至閬州作時吐蕃党項與
僕固懷恩之亂方殷故有羣盜尚如毛之句

萬壑樹聲滿朱曰顧愷之言千
巖競秀萬壑爭流千崖秋氣高深曰宋玉曰
悲哉秋之為

氣也天高而氣清浮舟出郡郭別酒寄江濤良會不復又此生

何太勞窮愁但有骨群盜尚如毛朱曰窮愁而瘦極也
群盜尚多故如毛吾

舅惜分手使君寒贈袍朱曰范曄見須賈賈曰范叔
一寒如此乃取綈袍以賜之沙頭

暮黃鶴失侶自一作哀號號趙曰自當以亦為正言人
別而哀黃鶴失侶亦然也

奉送十七舅下鶴曰公屢以夔為殊方為絕
域今詩云絕域三冬暮當是

大曆元年在夔州作
故又云浮生一病身

絕域三冬暮深曰東方朔傳
三冬文史足用浮生一病身感深辭舅氏

朱曰渭陽詩
我見舅氏別後見何人縹緲蒼梧帝深曰謝玄暉詩雲
土蒼梧野曠延年

詩謂帝蒼山溪記檀弓舜葬於蒼梧之野蒼梧南越趙曰虞舜死於
蒼梧之野指言虞舜以迷十七舅所往之處也鶴曰按九域志蒼梧

山在道州而道
與邵宜鄉故云推遷子孟母鄰深曰孟子序幼被慈母三遷之教
潘安仁開居賦孟母所以三徙注

子孟初居與軒少居近墓軒乃戲為墓軒母曰此非所
居去居市傍軒愛戲為商賈居學館之傍遂為大儒昏昏阻雲水

側望苦傷神朱曰張平子四愁詩側身東望涕
霑翰蜀都賦望之天迴即之雲昏

奉送二十二舅崔錄事之攝郴州
鶴曰袁

甲兵又云云春江上別當是
大晉五年作時戚玠為亂

賢良歸盛族趙曰周禮友行以尊賢良則才之美吾舅盡知名行庶

高交趙曰以言在舅徐庶字元直其所與遊者諸葛亮龍士元司馬德操之流而已劉牢出外甥

陳曰桓公曰何無忌劉牢之外甥酷似其舅今舉大車孰謂無成趙曰公以無忌自比也泥塗豈珠玉趙曰

質豈宜辱在泥塗舅謂明珠白玉之環堵但柴荆衰老悲人世驅馳厭甲

兵氣春江上別江上徒離憂淚血渭陽情陳曰詩我送舅氏日至西有

陽舟鷓排風影林鳥反哺聲陳曰東晉補亡詩嗷嗷林鳥受哺于子趙曰言崔舅侍太

夫人以行也李善注文選有曰純黑而反哺者鳥子求嘉多北至陳曰求嘉之亂元帝渡江衣冠多自北至鄭曰

求嘉平年號趙曰言崔舅自北而來句漏且南征陳曰葛洪求為句漏令以有丹到也楚詞汨吾南征鄭曰句漏

邑名屬交趾必見公侯復陳曰左傳公侯必復其始趙曰終聞盜

賊平郴州頗涼冷橋井尚凄清趙曰橋井在郴州神仙傳蘇耽於山下鑿井種橋救

鄉里之疾病者而曰橋井在郴州城東蘇耽之故宅宅今為觀井之水每酌則有金早云丹影如此予官柳嘗目觀其實從役

何蠻貊居官志在行陳曰論語言忠信行篤敬雖蠻貊之

贈比部蕭郎中十兄甫從姑之子鶴曰唐志比部

掌勾會內外賦敘經費俸祿公廨勳賜等物梁編在天寶十四載長安作按詩云漂蕩雲天闊沉理日月奔致

君時已晚懷古音云存則未獻賦前作當是天寶五載自河南歸應詔時

有美生人傑陳曰人中之豪傑以其傑由來積德門漢朝

丞相系陳曰謂蕭相國何梁日帝王孫陳曰梁武帝姓蕭蘊藉為郎父

陳曰以蘊藉而為郎東觀漢記和榮溫恭有蘊藉文穎曰寶博有餘也魁梧秉哲尊陳曰周勃魁

音悟悟若言詞華傾後輩蘇曰高鳳詞華後輩傾雅宜為師範風雅諷孤騫

師曰騫騫也言飛騰宅相榮姻戚陳曰晉魏奇少孤為外家寄無與之故曰孤騫兒童惠討論趙曰

當出貧撈奇曰當為外氏成此宅相後為公見知真自幻陳曰潘安仁懷雋賦序

童時得蕭兄惠以討論之益也林敏功日惠聰慧也益也林敏功日惠聰慧也

友東武戴侯揚君始見謀拙愧諸昆陳曰子美與蕭西

知遠申之以為婚姻陳曰子美與蕭西

天闊沉埋日月升致君時已晚懷古意空存
知於蕭兄已自幼時而自後謀拙則每媿諸兄其謀拙者何飄蕩於外而不能任事也中散山陽
嵇康為中散大夫尚性絕巧而好鍛王戎自言與康居山陽二十年未嘗見喜慍之色愚公野谷村
愚公移山而北智叟笑止之修可曰韓子昔齊威公入山問父老此為何谷谷答曰臣舊畜牛生犢以子買駒少年謂牛不生駒遂持而去傍鄰以臣為愚寧紆長者轍
朱曰陳平以席為門而門長歸遂各為愚公谷老任乾坤

婚姻

古詩一首

律詩一首

佳人

師曰詩簡古利不用賢云彼美人兮西方之人兮蓋言賢者有佳美之德此詩亦以佳人喻賢者若用新進少年至於踈棄舊臣用寓意有此作非獨為佳人之什讀者可以意會鶴曰此詩乾元二年在秦州作甫自謂也亦以傷關中亂後志感哀也

絕代有佳人

朱曰才延年歌曰北方幽居在空山一作谷田有佳人絕代而特立

詩皎皎白駒

自云良家子

朱曰趙九國傳六郡良家子

零落依草木

希

官高何足論不得收骨肉

蘇曰崔弘謀於市骨肉不得收葬希曰前漢韓延壽傳民有骨肉爭

歇萬事隨轉燭

蘇曰徐邈萬事興衰轉燭相似何必計較

夫婿輕薄兒

朱曰沈

長安輕薄兒

新人美如玉

朱曰一云已如玉古詩燕趙多佳人美者顏如玉

合昏尚知時

定功曰本草云合歡即夜合也人家多植庭除間一名合昏陳藏器云其葉至昏即合故曰合昏趙曰佳佳自怨之辭言物之有合有偶而人之不若也天覺曰周處風土記云合昏權鴛鴦不獨宿
朱曰詩鴛鴦于飛鄭氏婚禮謂文贊曰鴛鴦鳥雄雌相親飛止相隨故曰崔豹古今注曰鴛鴦鳥類也雌雄未嘗相離人得其一一思而死故謂之但見新人笑那聞舊人哭
趙曰李白亦云新人如花

在山泉水清出山泉水濁

趙曰此生人怨夫之辭逸曰晉孫

情因所門而

侍婢賣珠迴
朱曰

情因所門而

侍婢賣珠迴
朱曰

毋以責事 牽蘿補苴 蘇曰陶景山居縣云采芝草與盤蔬牽

摘花不插髮 修言其不事耕也 采柏動盈掬 蘇曰詩

脩竹 趙曰上句言天色已寒而翠袖尚薄下句則所思遠矣師曰

忠臣貞婦也 改易此所以為

新婚別

王深父曰先王之政新有婚者暮不復政出於

兔絲附蓬麻 引蔓故不長 蘇曰古詩與君為新婚兔絲附女

寄生也 兔絲附蓬麻也 陸機疏云今兔絲連草上生黃赤如金台藥

蓬麻為不得其所矣 希曰爾雅唐蒙女蘿兔絲釋曰唐也蒙也女蘿

傍 蘇曰周述生而怪里父曰不 結髮為妻子 蘇曰蘇子卿詩

蘇曰蘇子卿詩

今麻三月共商工換

遠守邊 赴一河陽 蘇曰王簡樓君床 妾身未分明 何以拜姑

歸 蘇曰蘇子卿詩 父母養我時 日夜令我藏 生女有所

婦人在軍中 兵氣恐不揚 蘇曰蘇子卿詩 沉痛迫中

致此羅襦裳 蘇曰蘇子卿詩 洗紅粧 仰視百

洗紅粧 仰視百

洗紅粧 仰視百

洗紅粧 仰視百

洗紅粧 仰視百

洗紅粧 仰視百

與君永相望

趙曰宋玉風賦曰况鍾心注云雜錯交連也

送大理封主簿九郎親事不合却赴通州主

簿前閬州賢孝子余與主簿平章鄭氏女子垂

欲納采鄭氏伯父京書至女子已許他族親

事遂停鶴曰梁權道維在大曆三月

禁錮去東牀

日主婚但如劉真長王子敬便足如王處仲桓元

帝曰可才小官曹便嫁人家事珣對曰謝琨雖不及真長不戒子故

元帝始鎮建康公私寤每得一豚以為珍膳項上一鸞尤美輒以

薦帝群臣未嘗飲食于時呼為禁鸞故珣因為戲琨竟尚主王義之

謂駭曰王氏少亞佳然聞信至咸自於持惟一人在東牀坦腹食

獨若不問監口此正佳婿也訪趨庭赴北堂陳曰語陳元問於

日未也嘗獨立無趨庭之語草言樹之皆註皆北堂也疏背者向背

退而李詩鄰詩竹竿得故知昔為北堂士昏禮云婦洗

在北堂註房半以北堂

遠涉蘇曰北堂註房半以北堂

琴瑟幾虛張陳曰詩常棣琴瑟

湑水出驂驥陳曰詩常棣琴瑟

山生鳳凰深曰東京賦鳴玄床之

中道許蒼蒼頗謂秦益昆

春動才調深曰晉楚齊秦匹也

白首缺輝玉潤終孤立

珠明得闔藏珠

餘寒拆花卉恨別蒲江鄉

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

詩云餘寒折花

集字家註分類杜工部詩卷之八

